

俳句

大津俳句会

菜園を取囲みたる花薺 はななずな

井芹眞一郎

枝先のもつとも先に梅一輪

秋山 恵子

人知れず色を極めし竜の玉

市原 初女

恋の猫トタンの屋根を飛び越えし

大塚喜久子

水鳥の急に飛び立つ川面かな

佐賀 久子

阿蘇五岳醒めつつありぬ雪間草

松尾 昭雅

寒雀光こぼして降りて来し

岡崎 浩子

一片を開いただけの冬薔薇

森山美穂子

春の雪ふはりと消ゆる石の上

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

豆腐屋に昭和の匂い水温む

矢嶋 道子

夢に見し桃源郷で初音聞く

水野 春子

苦をぬけて春へと向かう熊本便

梅木トキエ

姉逝きし斎場ひそかに春の雨

塚本 洋子

般若経沈丁の香を濡らしに来

柴田しのぶ

呪文忘れてなかなか解けぬ春の呪縛

志賀 孝子

四角な字細い字まあるい春待つ字

田上 公代

路味噌の味や昭和の子も老いて

木庭 杏子

ふり積もるカルテぶ厚い春の闇

上杉 波

短歌

大津短歌会

七時半阿蘇の裾野の間より今年の明日を はさま こぞ あした
輝き照らす

管野 静

粉雪を乗せて咲く如たおやかにしだれる ごと
白萩我を巡りて

豊岡ミツル

帰り来て腕巻く時計はずしおりひとつの
心放つごとくに

吉永 恵子

スカートに風をはらませて自転車少女
は鮎の泳ぐごと行く

坂本 果子

寒波来し白く輝く冬水田あさの陽ざしの
桑らに照らす

鞍 岳志

大晦日霜に萎れしパンジーの色鮮やかに
元旦迎う

小平 善行